

歴史遺産学科 歴史遺産コース 2026入学者用カリキュラム表

基盤科目【全学共通】	授業区分	区分要件	対象年次	卒業要件		
環境・地域	芸術平和学	講義 2単位	必修	1	30 単位 以上	
	東北文化論	講義 2単位	6単位	2 3 4		
	まちづくり論	講義 2単位	単位	2 3 4		
	クリエイティブ・ローカル論	講義 2単位	以上	2 3 4		
	地球環境論	講義 2単位		2 3 4		
	持続可能な地域論	講義 2単位		2 3 4		
	地域創造演習	演習 2単位		2 3 4		
ICT	ICTリテラシー	演習 2単位	必修	2	1	
	AIテクノロジー論	講義 2単位	単位		2 3 4	
	ICTと社会	講義 2単位	以上		2 3 4	
社会力	スタートアップゼミナール	演習 2単位	必修	6	1	
	デザイン思考基礎	講義 2単位	単位		2 3 4	
	生活と経済	講義 2単位			2 3 4	
	キャリア形成論	講義 2単位	必修	以上	2	
	仕事講座	講義 1単位			2 3	
	キャリア設計論	講義 1単位			3 4	
	スポーツ実技	実技 1単位			1 2 3 4	
	就業実習	実習 1単位			1 2	
	インターンシップ	実習 1単位			2 3	
人文社会	現代社会学	講義 2単位		4	1 2 3 4	
	社会と政治	講義 2単位		単位	2 3 4	
	倫理と社会	講義 2単位		以上	2 3 4	
	日本国憲法	講義 2単位			1 2 3 4	
	知的所有権	講義 2単位			2 3 4	
	地理学概論	講義 2単位			2 3 4	
自然科学	健康科学論	講義 2単位	必修	4	1 2 3	
	アートデザインのための数理	講義 2単位	単位		2 3 4	
	データの科学	講義 2単位		以上	2 3 4	
	環境と心理	講義 2単位			2 3 4	
	生物と自然	講義 2単位			2 3 4	
	線形代数学	講義 2単位			2 3 4	
グローバル	多文化理解	講義 2単位			2 3 4	
コミュニケーション	ENGLISH 101	演習 2単位	選択 必修	2 単位 以上	1 2 3	
	ENGLISH 102	演習 2単位				
	日本語1 ※留学生のみ	演習 2単位			1	
	Presentation in ENGLISH	演習 1単位			2 3 4	
	Communicative ENGLISH	演習 1単位			2 3 4	
	Academic ENGLISH	演習 1単位			1 2 3 4	
	Practical ENGLISH (for TOEIC test)	演習 1単位			1 2 3 4	
	日本語2 ※留学生のみ	演習 2単位			1	
	アート&デザイン コア科目	総合芸術概論1			講義 2単位	必修
総合芸術概論2		講義 2単位	単位		1 2 3 4	
美術史概論		講義 2単位	以上		1 2 3	
デザイン史概論		講義 2単位			1 2 3	
色彩学概論		講義 2単位			1 2 3	
立体造形基礎論		講義 2単位			1 2 3	
編集ディレクション演習		演習 2単位			2 3 4	
絵画・デッサン	演習 2単位			1 2 3		
アート&デザイン エクステンション科目	日本美術史	講義 2単位	文保		2 3 4	
	西洋美術史	講義 2単位	文保		2 3 4	
	近現代美術史	講義 2単位	美術		2 3 4	
	文化財保存修復入門	講義 2単位	文保		2 3 4	
	文化遺産マネジメント	講義 2単位	文保		2 3 4	
	歴史遺産学総論	講義 2単位	歴産		2 3 4	
	日本建築史	講義 2単位	歴産		2 3 4	
	西洋建築史	講義 2単位	歴産		2 3 4	
	考古学概論	講義 2単位	歴産		2 3 4	
	民俗・人類学概論	講義 2単位	歴産		2 3 4	
	地誌学概論	講義 2単位	歴産		2 3 4	
	アジア文化論	講義 2単位	歴産		2 3 4	
	工芸デザイン入門	講義 2単位	工芸		2 3 4	
	文芸総論	講義 2単位	文芸		2 3 4	
	思想と文学	講義 2単位	文芸		2 3 4	
	プロダクトデザイン入門	講義 2単位	プロ		2 3 4	
	インテリアデザイン論	講義 2単位	プロ		2 3 4	
	応用人間工学	講義 2単位	プロ		2 3 4	
	建築デザイン論	講義 2単位	建環		2 3 4	
	都市空間デザイン	講義 2単位	建環		2 3 4	
	生活とグラフィックデザイン	講義 2単位	グラ		2 3 4	
	映像文化史	講義 2単位	映像		2 3 4	
	メディア文化史	講義 2単位	映像		2 3 4	
	サステナブルデザイン入門	講義 2単位	企画/食文化		2 3 4	
	地域デザイン入門	講義 2単位	企画/食文化		2 3 4	
	ブランド・マーケティング入門	講義 2単位	企画/食文化		2 3 4	
	広告表現入門	講義 2単位	企画/食文化		2 3 4	
	商品開発・店舗プロデュース入門	講義 2単位	企画/食文化		2 3 4	
	事業計画入門	講義 2単位	企画/食文化		2 3 4	
	インターネットビジネス論	講義 2単位	企画/食文化		2 3 4	
	現代幸福論	講義 2単位	地域		2 3 4	
	クリエイター起業論	講義 1単位	共通		2 3 4	
	クリエイター起業ゼミナール	演習 1単位	共通		2 3 4	
	イノベーションプロジェクト	演習 1単位	共通		2 3 4	
	(単位互換科目)					

学科科目	授業区分	区分要件	対象年次	卒業要件		
必修	歴史遺産学総論	講義 2単位	基礎	1	74 単位 以上	
	日本史概論	講義 2単位	基礎	1		
	考古学概論	講義 2単位	基礎	1		
	民俗・人類学概論	講義 2単位	基礎	1		
	日本建築史	講義 2単位	基礎	1		
	西洋建築史	講義 2単位	基礎	1 2 3 4		
	世界遺産総論	講義 2単位	基礎	1 2 3 4		
	文化財保存修復入門	講義 2単位	基礎	1 2 3 4		
	文化財保護論	講義 2単位	応用	2 3 4		
	文化遺産マネジメント	講義 2単位	応用	2		
	民俗・人類学特論	講義 2単位	応用	2 3 4		
	先史考古学特論	講義 2単位	応用	1科目		2 3 4
	歴史考古学特論	講義 2単位	応用	2単位		2 3 4
	中世歴史学特論	講義 2単位	応用	1科目		2 3 4
	近世歴史学特論	講義 2単位	応用	2単位		2 3 4
	歴史遺産基礎演習1	演習 2単位	基礎	1		
	歴史遺産基礎演習2	演習 2単位	基礎	1		
	考古学応用演習1	演習 4単位	応用	2		
	歴史学応用演習1	演習 4単位	応用	2		
	民俗・人類学応用演習1	演習 4単位	応用	2		
	考古学応用演習2	演習 4単位	応用	2		
	歴史学応用演習2	演習 4単位	応用	2		
	民俗・人類学応用演習2	演習 4単位	応用	2		
	フィールドワーク1	演習 4単位	基礎	1		
	フィールドワーク2	演習 4単位	応用	2		
	フィールドワーク3	演習 4単位	発展	3		
	キャリアマネジメント	演習 2単位	応用	3		
歴史遺産文献講読1	演習 2単位	発展	3			
歴史遺産文献講読2	演習 2単位	発展	3			
歴史遺産研究1	卒研 4単位	発展	4			
歴史遺産研究2	卒研 6単位	発展	4			
選択	社会文化環境論	講義 2単位	基礎	1 2 3 4	8 単位 以上	
	世界史概論	講義 2単位	基礎	1 2 3 4		
	地誌学概論	講義 2単位	基礎	2 3 4		
	アジア文化論	講義 2単位	応用	2 3 4		
	保存科学概論	講義 2単位	基礎	2 3 4		
	文化財基礎化学	講義 2単位	基礎	2 3 4		
	文化財材質論	講義 2単位	応用	2 3 4		

科目概要				学修レベル		教育概要		学位授与方針(OP)との関連																				
科目名	授業形態	単位数	授業区分	学期	基礎	応用	発展	科目目的	目指す教育成果と到達度判断		身につける能力要素																	
									到達目標	評価方法・手段	知識・理解	思考力	課題発見力	発想・構想力	表現力	論理性	実行力	基礎学力	自己管理能力	人間関係形成力								
												1035	355	330	420	735	110	535	175	30	75							
												24	11	8	13	21	3	18	6	1	3							
歴史遺産学総論	講義	2	必修	1	前期	●		本講義は、考古学・歴史学・民俗学の3分野の学問について概要を知るとともに、研究成果を現代社会に還元する「歴史遺産マネジメント」の手法を学びます。国宝や重要文化財・世界遺産といった「有名な文化財」から「日常にある文化財」にまで目を配り、「歴史遺産とは何か?」について、その視野を広げることが第一の目的です。また、歴史遺産は過去のことばかりでなく、現代・未来を考える素材にもなります。そこで「歴史遺産の読み解き方」の基本的な知識と方法論を身につけるとともに、「歴史遺産の活用」について学ぶことも目的としています。	①歴史遺産とは何かを理解し、説明することができる(30%) ②歴史遺産に関する知識や事象について説明することができる(30%) ③授業内容をふまえて(文化財や遺産についての考え方を理解し)、歴史遺産と関連した現代社会の問題点や未来への展望など行政、地域住民など多面的意見や考え方を理解し、説明することができる(40%)	レポート		30																
日本史概論	講義	2	選択	1	前期	●		この科目では、日本の歴史を多角的・相対的に理解し、考える態度を身に付けることを目的とします。歴史は絶対的なものではなく、史料の解釈によってかわる相対的なものです。どのような史料を、どのように解釈して、どのような歴史像を描き出すのかといった研究プロセスと考え方の根拠となる史料を見聞することで、日本史に限らず、モノゴトを多角的・相対的にみる力を自分の専門分野に活かせるようになることを求めます。	①歴史学の研究方法を理解し、説明することができる(20%) ②授業内容を理解し、説明することができる(50%) ③それぞれの専門分野において歴史学の方法や歴史学実を活かす方法を考え、説明することができる(30%)	大レポート(50%)、中レポート(30%)、授業後ペーパー(20%)		20																
考古学概論	講義	2	選択	1	前期	●		この科目では、まず考古学の学問領域を理解し、考古学が対象とする遺構や遺物からどうやって過去を復元していくのか、考古学の方法論を学びます。また、地域史の中に遺跡や遺物などの考古資料を位置づけるために、各時代の文化内容を理解し、東北地方を中心とした先史時代の遺跡・遺物の特徴について理解を深めます。	①考古学が扱う資料とその特徴、考古資料の年代決定法について説明できる。先史時代の考古学的時代区分とその文化変容について説明できる。(50%) ②考古学の物質文化研究や理論研究の手法を各自の専門分野にどう生かすかについて説明することができる。(30%) ③各授業の課題に対して意欲を持って取り組み、疑問や自分の意見をわかりやすく表現する。(20%)	試験		50																
民俗・人類学概論	講義	2	選択	1	後期	●		本講義は、今後の歴史遺産についての学問的基礎を身につけることを目的とする科目のうちの1つです。本講義の第1の目的は、人類学(英: anthropology)から派生した日本民俗学・文化人類学分野の学術を整理し、民俗学・文化人類学の主要なものの概要と代表的な研究者について、その基本的な研究目的と研究方法を理解することです。第2の目的は、民俗学・人類学的な基礎的な研究方法であるフィールドワークの概要と具体的な事例を紹介し、実践的なフィールドワークの手法を習得することです。	①民俗学と人類学の関係を、主要な人物などを具体的に示し、明確に説明することができる。(30%) ②フィールドワークの概念を具体的な事例を挙げて説明し、その自己評価を明確に述べる事ができる。(30%) ③自己の日常の事象についての疑問を示し、伝承や聞き書き及び文献を用いて具体的に考察し、独自の知見を述べる事ができる。(20%) ④3種類以上の資料を用いて地域の特色述べ、それに対する自己の評価を簡潔に説明できる。(20%)	小テスト(30%)、期末テスト(50%)、リアクションペーパー(20%)			40															
日本建築史	講義	2	必修	1	後期	●		「古きを訪ねて新しきを知る」ことは、まさに歴史学の真髄である。歴史を学ぶことは昔を知るだけでなく、同時に未来を見据えることなのである。この授業では、私たちの身の回りにある建築の原点となった、わが国を太古から近世までの建築の歴史の概観を理解し、歴史が培ってきた先人たちの知恵と工夫を学び、同時に講義で歴史に触れること、歴史から読み取ることを得し、将来自然と歴史に親しみながら、これを大きなヒントとして、自らの建築空間や芸術作品づくりの場で、新しい発想や斬新な視点を引き出すことが目標である。	①日常生活に親しみのある日本建築の歴史を理解し、日本人としての基礎的哲学や生活の基本的な知恵を獲得し、その概要、特徴について説明することができる(40%) ②日本建築の歴史から学んだ歴史観を、実際の自身の芸術作品、デザインに活かすことができる。(10%) ③日本建築の歴史から学んだ事柄から、自身の歴史的視座、歴史観を研ぎ澄まし、歴史を武器にして未来に活かす発想ができる。(40%) ④日本建築の歴史から学んだ事柄を、自身の周辺の社会課題解決のためのヒントとして活かすことができる。(10%)	各回振り返りシート・取組姿勢、最終レポート		40	20															
西洋建築史	講義	2	必修	1~4	前期	●		「古きを訪ねて新しきを知る」ことは、歴史学の真髄である。歴史を学ぶことは昔を知るだけでなく、同時に未来を見据えることもなる。本授業では、古代から近代までの西洋の建築の歴史の概観を理解し、同時に歴史に触れ、歴史から学び読み解くことを体得し、将来自然と歴史に親しみながら、これを大きなヒントとして自らの建築空間や芸術作品づくりの場で新しい発想や斬新な視点を引き出すことが目的である。	①西洋建築の歴史に関する基礎的な知識を身につけ、その概要や特徴を理解し、説明することができる。(40%) ②西洋建築の歴史から学んだ歴史観を、実際の自身の芸術作品、デザインに活かすことができる。(10%) ③西洋建築の歴史から学んだ事柄から、自身の歴史的視座、歴史観を研ぎ澄まし、歴史を武器にして未来に向けた新しい発想ができる。(40%) ④西洋建築の歴史から学んだ事柄を、自身の周辺の社会課題解決のためのヒントとして活かすことができる。(10%)	レポート、出席カード型振り返り感想シート		40	20															
世界遺産総論	講義	2	必修	1~4	後期	●		この科目では、①「世界遺産」の運営法とは何か、②「世界遺産」にまつわる問題は何か、③「世界遺産」の活用、について理解することを目的とします。「普遍的な価値」をもつ世界遺産に表れる「光と影」に気づき、多様な価値観を身に付けることを求めます。	①世界遺産の運用に関する基礎的な方法を習得し、説明することができる(40%) ②「世界遺産とは何か」を理解し、自分なりの価値判断を形成できるようになる(20%) ③世界遺産を現実社会に活かす方法について、考えることができる(20%) ④世界遺産をめぐる多様な考え方を理解し、それをふまえた自身の意見を述べる事ができる(20%)	レポート(100%)													30					
文化財保存修復入門	講義	2	必修	1	前期	●		本授業は、文化財保存修復学科と歴史遺産学科の1年生を主な対象としています。この授業の主要な目的は、文化財の保存と修復に関わる様々な分野の概要を理解し、各分野の専門的な学びに必要な基礎的な知識を習得することです。加えて、授業の復習とレポート作成を通じて、論理的な意見を構築し、効果的に表現する能力を養うことを目指します。	①(想像力) 専門分野ごとの文化財についての基礎的な知識を説明すること。(40%) ②(創造力) 文化財をどう捉え、どのように保存修復していくか自らの考えで述べる事ができる。(30%) ③(社会性) 授業の内容を理解し、自身の考察を加えレポートを書くこと。(30%)	レポート①(25%) レポート②(25%) 期末試験(50%)		40												30				
文化財保護論	講義	2	必修	2	前期	●		文化財保護行政及び文化財保護政策に関する知識を身に付けることを目的とします。また、授業の中で学んだことについて、自らの言葉で意見を述べるようになることを目指します。	①(想像力) 文化財保護行政及び文化財保護政策に関する知識を習得し、説明できる。(40%) ②(創造力) 文化財保護行政及び文化財保護政策に関して、自身の考えを述べる事ができる。(30%) ③(社会性) 授業の内容を理解し、自身の考察を加えレポートを書く事ができる。(30%)	小課題の提出課題レポートの提出(30%) 小テスト課題レポートの提出(30%) 課題レポートの提出(40%)			40										30					
文化遺産マネジメント	講義	2	必修	2	後期	●		文化遺産には地域で独自で育まれた文化や産物が多く含まれ、それらは郷土の資源として教育や観光など活用されてきている。一方で、高齢化や過疎化などから継承が危ぶまれ、問題を抱えている現状もある。本授業では文化財保存修復の観点から地域文化遺産の現状を学び、活用や課題解決に向けた、考える力を身につけることを目的とする。	①(想像力) 文化遺産の現状を理解できる。(40%) ②(創造力) 文化遺産が抱える問題を課題解決への確くアイデアを提示できる。(30%) ③(意志) 文化遺産に関して保存修復の観点から意見を述べる事ができるようになる(30%)	課題(レポート)(80%) 口課題(リアクションペーパー)(20%)		40												30				
民俗・人類学特論	講義	2	必修	2~4	前期	●		この科目では、文化人類学や民俗学の基礎理論をふまえて、呪術・占術、通過儀礼、神話、祝祭などの事例を深く学び、日本と諸外国の文化理解を深めていくとともに、それらの社会的価値を再確認していくことを目的とする。	①さまざまな文化慣行の社会的機能について理解し、説明できる。(40%) ②多様な民族事例を学び、自文化と比較することができる。(20%) ③歴史文化保存への意識を高め、自身の意見を述べる事ができる。(20%) ④多様な文化圏の人々の考え方を知り、議論することができる。(20%)	レポート(80%)、リアクションペーパー(20%)													40	30				
先史考古学特論	講義	2	選必	2~4	後期	●		人類の歴史を読み解くと、時代の変化とともに、ヒトが製作・使用した様々な物質文化も変化してきた。文献資料をもたない先史時代(旧石器時代~弥生時代)は、物質的資料からのみ過去の人類の営みを明らかにすることができ、それが考古学という学問の特徴である。そのため、各時代の文化内容やその変化を理解せずに、当時の社会を復元することはできない。本授業では、先史時代の遺物・遺跡について、社会・環境・技術の側面から理解することで、今後様々な分野での調査・研究を行う際のベースづくりとすることを目的とする。	①先史時代の遺跡・遺物研究の成果について説明できる。(50%) ②先史時代の道具の製作技術を把握し説明できる。(50%)	レポート・発言内容															50	50		
歴史考古学特論	講義	2	選必	2~4	後期	●		考古学は発掘調査により検出された遺構と出土した遺物をもとに過去の人類の営みについて明らかにする学問であり、究極的には「人類とは何か」との大きな問いに答えるために実証的な研究を積み重ねている。当科目では上記の命題に関わる考古学の主要な研究課題の一つである墓制について見識を深めることを目的とする。	①墓制論研究の方法と成果について説明できる(50%) ②墓の社会的機能とその変遷について説明できる(50%)	レポート・発言内容														50	50			
中世歴史学特論	講義	2	選必	2~4	後期	●		この科目では、中世の史料を使って過去の社会にアプローチすること、アプローチして得られた結果を現代と比較するという、歴史学の基本的な方法を身につけることを目的とします。歴史学において分析の素材となる史料とはどのようなものか、史料からどのように情報を引き出すのか、また史料からわかることの限界についても理解することを求めます。	①史料の分析方法を学び、自らの関心に基づいて基礎的な考察ができる(50%) ②中世の社会について理解を深め、自らの表現でその特徴を説明することができる(50%)	大レポート(60%)、小レポート(30%)、授業後ペーパー(10%)		50													50			
近世歴史学特論	講義	2	選必	2~4	前期	●		この科目では、近世の史料を使って過去の社会にアプローチすること、アプローチして得られた結果を現代と比較するという、歴史学の基本的な方法を身につけることを目的とします。歴史学において分析の素材となる史料とはどのようなものか、史料からどのように情報を引き出すのか、また史料からわかることの限界についても理解することを求めます。	①史料の分析方法を学び、自らの関心に基づいて基礎的な考察ができる(50%) ②江戸時代の身分制について理解を深め、自らの表現でその特徴を説明することができる(50%)	大レポート(60%)、小レポート(30%)、授業後ペーパー(10%)		50	25											25				
歴史遺産基礎演習1	演習	2	必修	1	前期	●		この科目は歴史遺産を調査・報告するために必要な、観察・スケッチ・実測・地図利用・文献収集・レポート作成の方法を習得する。フィールドワークに出る前の文献調査の方法や、調査終了後に提出するレポートの体裁など、アカデミックライティングについて学ぶ。	①地理・歴史に対する基礎知識を復習し、フィールド調査の方法を習得することができる。(25%) ②地図・概説書・論文・文化財を読み解き、論理的な文章によりまとめることができる。(25%) ③歴史遺産をスケッチ・実測する方法と技術を身につけることができる。(25%) ④歴史遺産をもとに発表することができる。(25%)	レポート・発表資料・学習姿勢		50	25															
歴史遺産基礎演習2	演習	2	必修	1	後期	●		この科目は論文の批判的読解と論文構成の把握を行い、発表資料・ポスター発表パネルの作成方法を習得する。発表資料は文章と図表、写真で構成されるため、グラフィックデザインソフト(Illustrator)を用いた歴史遺産のトレース方法や図版のレイアウト方法を習得する。	①歴史遺産学に対する基礎知識を習得するとともにフィールド調査の方法を理解することができる。(20%) ②概説書・論文を読み解き、論理的な文章にまとめることができる。(30%) ③山形市の文化財保存活用地域計画をポスターにまとめ、説明することができる。(30%) ④グループ活動において担当した役割を果たすことができる。(20%)	論文要約の発表レジュメ(20%)、中間レポート(30%)、山形市の文化財保存活用地域計画のパネルポスター作成(30%)、山形市の文化財保存活用地域計画のプレゼン発表(20%)															40	30		
考古学応用演習1	演習	4	選必	2	前期	●		この科目では遺跡調査に不可欠な地形の観察、測量・実測の基礎を身に付けることを目的とします。また、発掘調査は「仮説と検証」の繰り返しであり、実験考古学を通してその思考方法を身につけていきます。夏休み中に行うフィールドワーク2と連動する科目です。	①実験考古学的な課題を発見し、分析と解釈ができる。(25%) ②実験研究の成果を分かりやすく伝えることができる。(25%) ③測量機器の設定と操作を行い、他者に理解しやすい作図ができる。(50%)	作業の迅速性と作図の正確さ(50%) 実験レポートの分析とまとめ(25%) プレゼンテーションの内容と表現力(25%)		25	25													50		
歴史学応用演習1	演習	4	選必	2	前期	●		この科目では、史料を解読し、そこから客観的に情報を読み取り(解釈し)、描いた歴史像を文章化するという歴史学を学ぶ上での専門能力を身につけることを目的とします。そのうち、とくに史料の解読、すなわち①くずし字の解読と②史料の読み下し、③現代語訳の能力を中心的に訓練します。描いた歴史像を文章化するレポートでは、モノゴトを客観的にみつめる力、論理的に説明する力を身に付けることを求めます。	①歴史学を学ぶ上での専門能力としてくずし字の解読と読み下し、史料解釈ができる(60%) ②史料を解釈した歴史像を論理的に説明することができる(40%)	大レポート(60%)、小レポート(30%)、授業後ペーパー(10%)																	50	25
民俗・人類学応用演習1	演習	4	選必	2	前期	●		本演習は、学際民俗学・人類学系統の中でも特に建築学、都市史、歴史を活かしたまちづくり分野を中心とした、文化財に関する知識と事例学習、歴史建築やまちの歴史を可視化しながら地域を知る取り組みの実践的企画運営を体験し、実際に制作してあるプログラムである。都市や建築における歴史を見つめ、活かす思考構築とそれらを楽しむながら学ぶ姿勢を体験する。	①建築学、都市史、歴史を活かしたまちづくり分野の文化財マネジメントを体験し、それらの持つ意義や価値を人に伝えることができる(30%) ②身元づくし歴史の価値を可視化し、わかりやすく人に伝えることができる(20%) ③歴史を伝え、次世代へのバトンを渡す現代人としての責務を持続性を持った発想力で実現できる。(20%) ④まちへ向かい、地域の魅力や課題を発見し、まちに役立つ企画やプレゼンテーションとして社会に還元することができる(30%)	リアクションペーパーでの理解度。調査演習におけるリサーチ成果とまとめのプレゼンテーション完成度		40																

科目概要					学修レベル		教育概要		学位授与方針(OP)との関連																
科目名	授業形態	単位数	授業区分	学期	学年	基礎	応用	発展	科目目的	目指す教育成果と到達度判断	到達目標	評価方法・手段	身につける能力要素												
													知識・理解	思考力	課題発見力	発想・構想力	表現力	論理性	実行力	基礎学力	自己管理能力	人間関係形成力			
													1035	355	330	420	735	110	535	175	30	75			
													24	11	8	13	21	3	18	6	1	3			
考古学応用演習2	演習	4	選必	2	後期	●			この科目では、フィールドワーク2で発掘調査した出土品の整理と調査報告書の作成方法について学んでいきます。調査報告書作成に必要な、遺物の実測・拓本・トレースの技術を身に付けること、調査成果を客観的に記述する文章表現力を身に付けることを目的とします。実測図では遺物の形状などの表面的な特徴を正確に記録するだけでなく、それを作り、使い、廃棄した人々の行動に迫る観察力が求められます。	①考古資料の出土品整理の流れを理解し、説明することができる。(30%) ②遺物の洗浄、注記、実測の手法を知り、実践することができる。(30%) ③図化した資料を正しく観察して、報告レポートを書くことができる。(40%)	土器・石器の実測図、整理作業での積極性														
歴史学応用演習2	演習	4	選必	2	後期	●			本科目では、「歴史学応用演習1」で身につけた能力を発展させ、さまざまなテーマに基づく史料や統計の解説・分析を通して、歴史を構築する力を身に付けることを目的とします。地域に残る史料が示す歴史の姿が日本や世界の歴史全体どのような問題につながるのか、また史料に基づく歴史構築や地域・日本・世界を貫く視点が社会や時代どのように反映されるのか、といった視点を養うことを求めます。	①史料の解説・分析を通して、史料の示す歴史の姿を説明することができる(50%) ②地域の歴史に向き合い、日本史や世界史の普遍的なもの地域固有の特殊なものを認識し、説明することができる(30%) ③社会や時代を歴史的・構造的な視点から見つめ、説明することができる(20%)	大レポート(60%)、小レポート(30%)、授業後ペーパー(10%)														
民俗・人類学応用演習2	演習	4	選必	2	後期	●			この科目では、宗教や食文化、いじめ、捕鯨問題などの社会をめぐる昨今のケーススタディについて民俗・人類学的に深く考え、議論を通して、さまざまな意見を受け入れつつ、自身の考えを主張していく力を身につけていくことを目的とする。	①あらゆる文化を尊重し、受け入れていくことの重要性を理解し、説明できる。(40%) ②議論に積極的に参加し、自身の主張を述べることができる。(20%) ③民俗・人類学の考え方をいかに社会に生かしていくか、述べる。(20%) ④多様な考え方があり、相違を受け入れ、乗り越えていく社会性を身につける。(20%)	レポート・リアクションペーパー・討論と発表・小テスト														
フィールドワーク1	演習	4	必修	1	前期	●			本科目は、歴史遺産学科に入学して最初に実施されるフィールドトリップ、フィールドワークでありフィールドワークの入門編にあたります。授業は学外で2回(1泊2日と日帰り)行います。山形県内と県外の街を歴史遺産学的視点で歩き、地域間を比較することで、街の特質、歴史の違いに気づくことが目的です。また、事前調査から現地調査を経て、成果をまとめていく一連のプロセスを体験することで歴史遺産研究の流れをイメージできるようにします。	①フィールドワーク対象地について、地図や史料を用いて事前調査を行い、調査プロセスの要点をまとめ、基本的な調査設計が組めるようになる。(30%) ②フィールドワークを通して地域を観察する手法、「見る」「聞く」行為の重要性を理解する。(40%) ③地域の人々とふれあい、自分たちが地域を歩くことの意味を説明できる。(30%)	事前作成資料、レポート、フィールドノート														
フィールドワーク2	演習	4	必修	2	後期	●			この科目では考古学、歴史学、民俗学・人類学から一分野を選択履修し、フィールドで各分野の調査を実体験します。主体性をもってフィールドワークにのぞみ、地域や対象資料のなから具体的な問いを発見できることを目的とします。グループでの共同作業では各自の役割分担を踏まえ、協力しながら確実にやり遂げることが求められます。	①現地調査の方法を理解し、実践することができる。(50%) ②歴史遺産の調査と社会的意義について自分の意見をまとめられる。(50%)	フィールドノート、コミュニケーション力														
フィールドワーク3	演習	4	必修	3	後期	●			この科目ではゼミ単位で県内外でのフィールドワークを行い、各分野の方法論を用いた調査を実践する。また、卒業研究に向けた自身のテーマを選定し、資料調査などの研究に着手する。	①研究対象に関して地域的な課題や未解明の歴史について発見し、解決する方法を見出すことができる。(40%) ②地域の生活文化や歴史資料を扱い、これまでの研究で明らかになっている点を整理することができる。(30%) ③調査内容をまとめて発表することができる。(30%)	調査のレポート・フィールドでの積極性・コミュニケーション力・調査の成果発表プレゼンテーション														
キャリアマネジメント	演習	2	必修	3	前期	●			学科で身につけた力をどのように社会で生かすかを考えられる。社会と接点を持ち、社会性を身につける。グループで課題を設定し、解決していくプロセスを組み立てられる。	①自らのキャリアを描けるようになる。(30%) ②課題に主体的に取り組み、発想力を生かすことができる。(40%) ③組織の一員という意識を持ち、能力を発揮できる。(30%)	振り返りシート(50%)、PBLの内容(50%)														
歴史遺産文献講読1	演習	2	必修	3	前期	●			概説書と論文の読解を通して基本的な研究方法を身につける。また、学史を学ぶことで研究の現時点の成果を把握し、今後の課題・方向性について考える。	①研究の方法論について説明することができる。(50%) ②先行研究のこれまでの到達点と今後の方向性について整理できる。(20%) ③自らが担当したパートの要約を作成し、発表することができる。(30%)	レジュメ、発表内容、ディスカッションでの積極性														
歴史遺産文献講読2	演習	2	必修	3	後期	●			自らのテーマに関連した代表的な論文を講読することで多様な研究方法を理解し、適した研究方法を見つける。あるいは自ら開発する。卒業論文を視野に入れたテーマ設定を行う。	①論文の内容と構成、引用手順、読解方法を理解し、実践することができる。(50%) ②自らのテーマに合った方法論を見つめる、あるいは開発することができる。(25%) ③学術的な用語・語法による文章と、正確かつ理解しやすい図解によるレジュメを作成し、論理的な発表と活発な討論を行える。(25%)	レジュメ、発表内容、ディスカッションでの積極性														
歴史遺産研究1	卒研	4	必修	4	前期	●			卒業論文作成に向けた学史の整理とテーマ設定を行い、論文作成に向けた準備に取り掛かる。対象に関するデータ収集と実物資料の観察及び分析を行い、研究発表する。	①卒業論文作成に向けた適切なテーマ設定と学史の整理を行うことができる。(30%) ②文献調査によるデータの収集と実物資料の観察・分析を行うことができる。(30%) ③論文作成に向けた準備に取り掛かり、研究発表を行うことができる。(40%)	発表・質疑内容														
歴史遺産研究2	卒研	6	必修	4	後期	●			自らのテーマに基づく研究を行い、研究史・研究目的・対象資料・分析方法・結果・考察からなる論文を作成する。卒業論文は独創性と新規性、論理性といった質的な面はもとより、学史や観察所見の文章化と図版の作成など量的な面も評価対象となるため、多くの時間と労力が必要となることを自覚して取り組んでほしい。	①卒業論文を作成することができる。(80%) ②成果を発表することができる。(20%)	論文・発表														
社会文化環境論	講義	2	選択	1~4	前期	●			環境問題は、人類共通の国境なき人類自身との関わりである。加害者は被害者でもあり、被害者は加害者でもある。環境問題は、人類の進化史と深い関係にある。それは人類という種が、長期的タイムスパンの中で変動しつついる自然環境に適応する自然環境適応プロセス《授業前半》と、人類自身が創り出した社会や文化に適応する社会文化環境適応プロセス《授業後半》とが複雑に運動する中で生じた「環境の収容」という問題に関わることになるからである。本講義は、人類の進化史と地域環境への適応放散を視点としながら、環境と人間社会の関係を理解することを目的としている。そしてその具体的なモデルを極東ロシアや日本に求め、各フィールドから得られたデータをもとに環境問題へのアプローチを考えてゆく。	①人類の進化史を自然環境適応と社会文化環境適応という二つの概念から理解する。ここでの理解とは、他者に簡潔な説明が出来ることである。 ②人類がアフリカを出て地球上のあらゆる環境へと適応していった(適応放散)プロセスを理解する。 ③環境問題が被害者や加害者という従来の単純な二項対立的図式からは見えてこないという事実について理解する。 ④現代日本社会が抱えている野生動物問題を理解し、これを自分なりに考える基礎力を身につける。	中間レポート(50%)、最終レポート(50%)														
世界史概論	講義	2	選択	1~4	後期	●			世界史の学習で大切なことは、覚えることではなく考えることである。歴史的な事象については、各回の講義内容をもとに、世界史の重要な事象や概念についてより深く理解し、その事象や概念の歴史的意義を整理し、発展させて考察することが出来る。(50%) 世界史の重要な事象や概念について、現代の社会的事象と関連づけて考察し、現代の生活や文化に歴史的な事象がどのような影響を与えているか、気づいて説明することが出来る。(50%)	レポートの作成 全2回提出。いくつかのテーマを提示するので、1つを選択して作成すること。60% 授業への取り組み姿勢 授業後に「気づきと学び」を提出。40%															
地誌学概論	講義	2	選択	2~4	後期	●			地理的条件(地形、気候、文化、経済活動など)が地域に反映した結果形成される地域性を解明する。地域スケール設定の大小や、歴史的、テーマ的など多岐にわたる方法によりさまざまな課題解決的アプローチを試みる。	確かな知識と理解にもとづき問題意識や課題を発見し、解決に向けて行動できます。(40%) 講義内容を学びながら設定された地域の特徴が理解できます。(30%) 設定された地域の特徴や要点や問題点などの地域性を説明することができます。(30%)	授業者の問いに解答できた。(40%) 授業中に配布された用紙に記入し、授業終了時に提出します。 講義内容の理解や主旨が表現できた。(30%) 授業中に配布された用紙に記入し、授業終了時に提出します。 問題意識や課題を発見し考察できた。(30%) 授業中に配布された用紙に記入し、授業終了時に提出します。														
アジア文化論	講義	2	選択	2~4	前期	●			1. アジア的な造形精神の特徴をいくつかのキーワードを使用して説明できる。 2. 文献を批判的に読みつづき、自分の問題意識を発見できる。 3. 世界宗教と民族宗教の違いを説明でき、かつ、マナイズムとアニミズムを説明できる。 4. 呪術の文化人類学的分析理論の基本を説明できる。 5. 仏教の歴史と思想的特徴を理解できる。	『かたち誕生』及び『図解フツダの教え』各章について、毎回の授業において、その理解度をキーワードを関心ミニテストによって自覚することができる。(50%) 上記「科目の目的」に掲げた各事項について期末試験により、その理解定着度を確認することができる。(25%) 世界宗教と民族宗教の違いを説明でき、かつ、仏教の基本思想を説明できる。(25%)	『かたち誕生』レポート														
保存科学概論	講義	2	必修	2	前期	●			本講義は、保存科学の基礎と位置づけ、文化財の劣化に関わる様々な因子と劣化の原理、制御・管理法を学びます。	①(想像力)文化財に影響を与える各因子とその影響について説明することができる。(30%) ②(創造力)展示・保管空間などの問題点と対処法を指摘することができる。(30%) ④(社会性)文化財の保存についての基礎的知識を身につけることができる。(40%)	通常課題(40%) 期末課題(60%)														
文化財基礎化学	講義	2	必修	1	後期	●			本講義は文化財保存を専攻する学生が保存修復の現場で必要と思われる、化学の基礎的内容を独自に吟味し、構成したものです。特に有形文化財は何らかの物質であることから、その物質に関する化学は大変重要な学問領域です。講義を通して、物質面から見た文化財の性質を理論的に理解することを旨とします。講義は学生がスムーズに理解出来るよう、文化財保存修復で問題になった事例などを関連させた内容で行います。	①(想像力)化学の基礎知識を、文化財保存分野と関連させて理解することができる(40%) ②(創造力)化学の基礎知識を、文化財保存分野と関連させて説明することができる(30%) ③(意志)上記に関する基礎的な演習問題を解くことができる(30%)	中間課題: 50% 期末課題: 50%														
文化財材質論	講義	2	必修	2	前期	●			①文化財を健全な状態で保存してゆくためには、周囲の保存環境を良好に保つ必要がある。その最も大きな因子である、温湿度、虫菌害、空気汚染、光などについて、その実際や対策などについて学ぶ。 ②文化財は様々な材料から作られているが、出土品では限られた材料しか残らない。伝世品である正倉院宝物では約170種の各種材料がほぼ当初の状態で残されているので、正倉院宝物を中心としてわが国の文化財にはどのようなものを用いられているのかについて学ぶ。 ③わが国のみならず世界を代表する文化財である正倉院・正倉院宝物について知識を獲得し、また正倉院で現在行われている日常的な取り組み、あるいはこれまでの保存に関する歴史などについて学ぶ。 ④全体として特に①、②の学習成果を、ゼミ研究や卒業論などにおいて応用できるようにする。	①(想像力)文化財の材料がどのようなものか理解し、各材料の特徴を説明することができる。(60%) ②(創造力)講義を通して得られた知識を他の講義の理解に役立たせることができる。(20%) ③(社会性)文化財の材料についての基礎的知識を身につけることができる。(20%)	知識の定着を確認する筆記試験(40%) 授業内容に対する回答「質問・学習成果など」の質(60%)														